

令和3年度 通常総会・資料

ながの環境パートナーシップ会議

ながの環境パートナーシップ会議通常総会次第

(書面会議)

日時：令和3年6月

1 開 会

2 議 事

【第1号議案】

(1) 令和2年度活動報告について

①ながの環境パートナーシップ会議の活動概要 (P 1～)

②プロジェクトチームの活動報告 (P 6～)

プロジェクト名		R2 活動報告 ページ	R3 目標・活動 計画等 ページ
①	生ごみ削減・再生利用	7	21
②	市民の森づくり	8	22
③	太陽エネルギー普及促進	—	—
④	聖山自然復元	—	—
⑤	子どもの環境学習支援	9	—
⑥	ながのカーボンオフセット	—	—
⑦	小生物の育成環境保全	10	23
⑧	生態系豊かな、水に親しめる川づくり (水環境保全)	11	24
⑨	ぽんすけ育成	—	—
⑩	ゴマシジミ保護・育成	12	—
⑪	田中さくら公園作り&里山づくり	13	25

(2) 令和2年度収支決算報告について (P 14)

(3) 令和2年度監査報告について (P 15)

【第2号議案】

(4) 令和3年度運営方針(案)について (P 16～)

(5) 令和3年度活動目標・活動計画(案)について (P 20～)

(6) 令和3年度収支予算(案)について (P 26)

【その他】

3 閉 会

令和2年度ながの環境パートナーシップ会議活動報告書

活動の概要

令和2年度は、長野市の環境ビジョンの実現に向け「つなぐ・伝える・行動する」を行動指針とし、プロジェクト、広報活動などに取り組みました。また、平成29年度に見直しを行った、本会の行動指針である「アジェンダ21ながの環境行動計画」に基づき、事業者・他団体との連携など、新たな協働による環境活動を展開しましたが、新型コロナウイルス感染拡大により活動に大きな影響がありました。

1 各プロジェクトの活動

(1) 令和2年度の各プロジェクトの取り組み

①	生ごみ削減・再生利用プロジェクト	活動報告書のとおり
②	市民の森づくりプロジェクト	活動報告書のとおり
③	太陽エネルギー普及促進プロジェクト	休会
④	聖山自然復元プロジェクト	休会
⑤	子どもの環境学習支援プロジェクト	活動報告書のとおり
⑥	ながのカーボンオフセットプロジェクト	休会
⑦	小生物の育成環境保全プロジェクト	活動報告書のとおり
⑧	生態系豊かな、水に親しめる川づくり（水環境保全）プロジェクト	活動報告書のとおり
⑨	ぼんすけ育成プロジェクト	退会
⑩	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト	活動報告書のとおり
⑪	田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト	活動報告書のとおり

(2) プロジェクトサポーター制度について

5つの各プロジェクトとサポーター事業者が次のとおり協働による事業を展開しました。

※プロジェクトサポーター制度とは…

事業者の参画をより一層促していくため、プロジェクト活動に協働・支援・共感等いただける事業者が、直接、プロジェクト活動に、人的・活動資金・活動場所などを支援いただき、協働体制による継続的な環境活動の展開を図ることを目的に平成28年度に当制度を創設しました。

※協働事業の状況は次のとおりです。

【協働事業の状況】

プロジェクト名	サポーター事業者名
生ごみ削減・再生利用	長野市委託浄掃事業協同組合
子どもの環境学習支援	直富商事株式会社
小生物の育成環境保全	コマキ工業株式会社
生態系豊かな、水に親しめる川づくり（水環境保全）	株式会社公害技術センター
ぼんすけ育成（退会）	信陽食品株式会社（協働終了）

(3) 信州大学工学部「地域環境演習Ⅰ 2020」の受け入れ（中止）

信州大学工学部の「自分でPDCAサイクルを機能させて行動できる人材」の養成を目指し実施する「地域環境演習Ⅰ 2020」の受講生を、各プロジェクトチームで受け入れ、協働による環境活動を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染対策のため中止となりました。

2 ながの環境パートナーシップ会議全体での活動

(1) 第10回ながの環境団体大集合（中止）

新型コロナウイルス感染対策のため中止となりました。

3 広報

(1) ホームページの運用

- ・ 各プロジェクトの出前講座やイベント等の予定及び活動報告などを掲載
- ・ 他団体などから情報提供されたイベント等を掲載

(2) 令和元年度活動成果報告書「手をむすんで」を発行

ニュースレター「手をむすんで」に代わる本会の活動を情報発信していくため、新たに令和元年度のながの環境パートナーシップ会議活動成果報告書「手をむすんで」を発行し、会員や関係機関にPRしたほか、新規会員の勧誘時に活用いたしました。

【規格】 (詳細版) 表紙4P 本文28P 中綴じ仕上げ
(配布版) A3二つ折り

- 【内容】
- ・ ながの環境パートナーシップ会議の案内
 - ・ 令和元年度運営方針
 - ・ ながの環境パートナーシップ会議活動成果報告
 - ・ プロジェクトの活動成果報告
 - ・ 信州大学工学部地域環境演習の報告

【支援団体】 発行に際し、長野市地球温暖化防止活動推進センターの支援をいただきました。

(3) イベント等への参加

① 信州環境フェア2020（2021年夏に延期）

② ながの環境フェア2020（中止）

★代替イベント「ながのエコウィーク」

～ごみ減量・リサイクル、そしてSDGsに取り組もう！～（不参加）

【日時】 令和2年9月27日（日）～10月4日（日）午前10時00分～午後4時00分まで

【会場】 長野市 リサイクルプラザ

【内容】 活動展示、体験教室等

販売、模擬店など

その他の催し

(4) 電子メール及びfacebookの活用

電子メールにて本会会員、関係機関及び長野市役所職員宛へ各プロジェクトチーム等が開催するイベントの情報発信をしています。また、facebookのページを作成し、会員以外の方にも情報発信を行っております。

4 他団体との連携

(1) 「ライトダウンキャンペーン 2020 in ながの」に参加協力

本会は、ライトダウンながのの実行委員会の構成団体として、温暖化防止・CO₂削減の啓発活動に協力しました。なお、実行委員会としてのキャンペーン活動は、令和2年度で終了しました。

【キャンペーン期間】 10月23日（金） 18:00～20:00

【会場】 長野駅善光寺口駅前広場

(2) 事業所・環境保全団体との活動の連携

【生ごみ削減・再生利用プロジェクト】

住民自治協議会と長野市生ごみ減量講座を共催しました。長野市委託浄掃事業協同組合に協力していただき収穫祭を開催しました。

【市民の森づくりプロジェクト】

環境保全研究所との協働にて「環境保全研究所飯綱庁舎周辺の森の整備」を令和2年度より始め、環境保全研究所との協力連携が進みました。

【子どもの環境学習支援プロジェクト】

「国際ユース環境会議」を、実行委員会、参加スタッフ、支援組織との協力により継続して開催しました。

【小生物の育成環境保全プロジェクト】

オオムラサキ繁殖地での活動を、住民自治協議会及び他の保全団体を含めて組織された連絡会で情報共有しながら、計画的な保全と環境学習会等を実施しました。

【ゴマシジミ保護・育成プロジェクト】

長野市開発公社と長野市霊園での保護活動を行いました。

浅川小学校とワレモコウの育苗・植栽を行いました。

(3) 長野市環境こどもサミットに参加協力

こども達が環境問題を理解し、地球環境について深く考え、今後の活動を契機となる場を提供するため、毎年環境こどもサミットが開催されています。本会は、主催者である同サミット実行委員会の構成メンバーとして、運営の一翼を担いました。

なお、新型コロナウイルス感染対策のため、参加者の規模を縮小（120名）し、例年行われていた各団体のブース展示と取り止めたため、P会議としての参加はありませんでした。

【開催日時】 令和2年10月25日（日） 午前10時～午後0時30分

【場 所】 長野市勤労者女性会館しなのき

【参加者数】 1人（実行委員として）

(4) 他の環境団体等への周知

令和元年度活動成果報告書「手をむすんで」やパンフレットを個人や事業所などに配付をしました。また、各新聞に記事として取り上げられるなど環境活動をPRしました。

5 会議

(1) 通常総会

日 時：令和2年8月6日（木） 午後6時から7時10分まで

会 場：長野市ふれあい福祉センター 5階 大ホール

出席数：出席者数 106（出席者 16＋委任状 90 会員数 181）

内 容：令和元年度活動報告、収支決算報告、監査報告について

令和2年度運営方針（案）、活動目標・活動計画（案）、収支予算（案）について

役員の選任について

(2) 理事会

ながの環境パートナーシップ会議の運営等について協議するため、理事会を8回開催しました。

第2・7回の理事会では、プロジェクトリーダーとの合同会議を開催しました。

また、第3回の理事会について、電子メールを用いたみなし決議としたことで、業務の効率化を行いました。

回 数	開 催 日 時	参加者数	備 考
第1回	6 月 11 日 （木） 18:00～	7 人	
第2回	7 月 2 日 （木） 18:00～	12 人	合同会議
第3回	7 月 22 日 （水）	8 人	みなし決議
第4回	11 月 12 日 （木） 18:00～	6 人	
第5回	12 月 10 日 （木） 18:00～	9 人	
臨時	2 月 9 日 （火） 18:00～	8 人	
第6回	4 月 15 日 （木） 18:00～	6 人	
第7回	5 月 13 日 （木） 18:00～	7 人	合同会議

(3) 各プロジェクトチームのミーティングの開催

各チームで随時開催しました。

6 市政等への参画

審 議 会 等 名 称	会 員 名
長野市地球温暖化防止活動推進センター運営委員 長野広域連合ごみ処理手数料審議会委員 豊かな環境づくり長野地域会議運営委員	金井 三平
長野市環境審議会委員	赤羽 和春
長野市健康増進・食育推進審議会委員	佐藤 敏夫
長野市廃棄物減量等推進審議会委員	河西 弘明
長野県緑の基金理事	片桐 勝治
長野市環境こどもサミット実行委員会委員	小山 勝宏

7 その他

(1) 寄附

令和3年1月29日、長野卸売市場協同組合様から本会へ寄附金の贈呈がありました。

【内容】長野卸売市場内の約80の事業所でつくる同組合は、市場内で出た古紙を原料にトイレットペーパーを製造し、各事業所に販売しています。このたび、同組合からこのトイレットペーパーの売上金の一部を市内の環境保全活動に役立ててほしいと本会に寄附していただきました。

【寄附金額】58,300円

(2) 会員

令和3年5月末現在の会員数：170（令和2年5月末：182）

(3) ながの環境パートナーシップ会議への年間活動参画者数

平成23年度：	4,116人
平成24年度：	4,176人
平成25年度：	3,638人
平成26年度：	3,566人
平成27年度：	3,766人
平成28年度：	4,112人
平成29年度：	4,629人
平成30年度：	4,842人
令和元年度：	4,588人
令和2年度：	1,814人

令和2年度活動報告書			  		
ながの環境パートナーシップ会議 [総括表]					
ビジョン	山にみどり・川に清流・谷に風・空の星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの				
基本方針	環境問題に関わる人や団体を結び(つなぐ)、情報を共有する(伝える)し、共に活動(行動する)する役割を担うことにより、環境保全に向けたネットワークを築き、地球環境問題へと視野を広げながら、地域から地球規模に広がる環境保全活動を推進し、環境ビジョンの実現を目指していく。				
活動方針	①アジェンダの推進 ②協働の拡大と連携強化 ③広報ツールとして活動成果報告書「手をむすんで」を刊行 ④民間団体助成金の活用を推進				
実施プロジェクト等	①	生ごみ削減・再生利用プロジェクト			※会員数:20
	②	市民の森づくりプロジェクト			会員数:24
	③	太陽エネルギー普及促進プロジェクト			会員数:10
	④	聖山自然復元プロジェクト			会員数: 5
	⑤	子どもの環境学習支援プロジェクト			会員数: 2
	⑥	ながのカーボンオフセットプロジェクト			会員数: 2
	⑦	小生物の育成環境保全プロジェクト			会員数:36
	⑧	生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト			会員数:9
	⑨	ぼんすけ育成プロジェクト			会員数: 9
	⑩	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト			会員数: 1
	⑪	田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト			会員数:10
	⑫	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクト⇒中止			-
	※事業者・団体の会員数は1と数える。また、複数のプロジェクトに所属している者は両方で数えるので、全体の会員数とは一致しない。				
活動実績	実施期間	内 容			人数
	R2.6～R3.5	生ごみ削減・再生利用プロジェクト			304
	R2.6～R3.5	市民の森づくりプロジェクト			345
	R2.6～R3.5	太陽エネルギー普及促進プロジェクト			-
	R2.6～R3.5	聖山自然復元プロジェクト			-
	R2.6～R3.5	子どもの環境学習支援プロジェクト			82
	R2.6～R3.5	ながのカーボンオフセットプロジェクト			-
	R2.6～R3.5	小生物の育成環境保全プロジェクト			542
	R2.6～R3.5	生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト			9
	R2.6～R3.5	ぼんすけ育成プロジェクト			-
	R2.6～R3.5	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト			145
	R2.6～R3.5	田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト			244
	R2.8.6	令和元年度通常総会			106
	R2.6～R3.5	理事会			31
	R2.6～R3.1	地域まるとキャンパス実行委員会(5回)			5
	R2.10.25	第24回長野市環境こどもサミット			1
	R3.2	令和元年度活動成果報告書「手をむすんで」発行			0
	一年間の活動・参加者数			1,814	
成果・課題	《活動の成果》 ・12プロジェクトを推進。 ・活動成果報告書「手をつないで」を発行し関係団体へのPRや新規会員の勧誘時等で活用した。 ・ホームページにバナー広告を掲載。また、facebookを利用した情報発信を行った。 《今後の課題》 ・環境保全活動の協働の推進(プロジェクトサポーター制度の推進等) ・会員の高齢化による活動力の低下が懸念されるため、市民・事業者・行政の協働による取組を更に推進するとともに若者や事業者を含む新規会員の勧誘を促進する。 ・ながの環境団体大集合が、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、中止となった。				
	・令和3年5月末現在の会員数:170 うち個人:140、事業者・団体:30 (令和2年5月末現在の会員数:182) ・ながの環境パートナーシップ会議の活動への参画者				
	平成21年度: 2,448人				
	平成22年度: 2,790人				
	平成23年度: 4,116人				
	平成24年度: 4,176人				
	平成25年度: 3,638人				
	平成26年度: 3,566人				
	平成27年度: 3,766人				
	平成28年度: 4,112人				
	平成29年度: 4,629人				
平成30年度: 4,842人					
令和元年度: 4,588人					
令和2年度: 1,814人					

令和2年度活動報告書										2月	12月	1月
プロジェクト名		生ごみ削減・再生利用プロジェクト										
理想の街	・市民一人ひとりが地球環境の悪化を懸念し、生ごみの削減・再生利用につとめ、排出量は以前と比べ大幅に減っているまち ・生ごみの大半がリサイクルされ再生利用システムの推進、可燃ごみが大幅に減少しているまち ・地域ごとに多くの市民が生ごみの減量化・再資源化に取り組む地域循環型のまち											
数値目標	・可燃ごみに占める生ごみの割合を35%にする。 ・市が推奨する自家処理(水切り・堆肥化)を2つの住民自治協議会との協働で維持できた。 ・キッズ生ごみ農園クラブの年間家族会員20家族が、台風19号及び新型コロナウイルスの影響により8家族に減った。被災した農業機器を修理し、ミズコンポスト2号機を完成させて生ごみ堆肥約5000kgを製造し農園に活かした。											
行動計画	①生ごみ削減・再生利用の啓蒙・啓発キャンペーン活動は、新型コロナウイルス対策のため展示が全て中止、講習会は1件のみとなった。 ②市生活環境課とみどりの市民の協力による講習会は、コロナ対策のため中止となった。 ③「キッズ生ごみ農園クラブ」の活動は、台風19号被害からの復活のため、農機具を修理し、圃場の整備復元をからやり直した。ミズコンポストの2号機を製作することによって、より多くの生ごみを受け入れられるようになり、圃場で使う窒素肥料はほぼ賅えるようになった。④市民の森プロジェクトの協力により、台風19号で流されたベンチを新調することが出来た。新型コロナが収束したら、市民と若者の交流の場として準備できた。											
活動計画	①新型コロナウイルス対策のため信州環境フェア・アモーレフェスタの展示等全てのイベントが中止となった。 ②安茂里自治協にて「生ごみ実践減量講座」は実施できた。参加者18名。 ③キッズ生ごみ農園クラブの会員は、台風19号の被災及び新型コロナウイルスの影響により8家族に減った。 ・ミズコンポスト1号機を補修し、2号機を製作して生ごみの受入れ体制を整え、堆肥が増産出来た。 ・圃場の整備復旧作業は、会員及び他のプロジェクトの協力を得て、長い目で進めることにした。											
活動実績	月	日	内容		人数	月	日	内容		人数		
	6	6	大根掘り・豆の種まき・支柱立て		11	12	3	大根・秋野菜販売		2		
		7	サラダ菜・絹サヤ等収穫・草取り		7		7	物置鍵取付工事		1		
		14	農機具運搬・ハゼかけ設置・片付け		3		8	ミズコンポスト2号機の材料調達		1		
		15	麦刈り・ハゼかけ		4		15	おでん大根収穫		1		
		16	麦刈り・黒小豆種まき・コンポスト切り返し		1		16	おでん大根収穫販売		1		
		20	麦刈り・耕運作業		2		21	鍵取付工事・コンポスト攪拌		1		
		21	麦刈り・苗植付け・草取り		6		27	新ビタビー5の資料確認		2		
		24	麦刈り・脱穀		2		29	水タンク設置と鍵取付		2		
	7	4	麦焙煎・ナス苗植付け		2	1	7	会計中間監査		2		
		5	麦茶バック詰め		2		13	ミズコンポスト2号機の製作開始		2		
		7	草取り・種まき追加		1		20	温床に春野菜の種まき		1		
		12	草刈り・ジャガイモ試し掘り		3		22	玉ねぎの追肥		2		
		16	草刈り・草取り		3		29	コンポストに防腐剤塗布		2		
		18	もち麦脱穀		2	2	5	ミズコンポスト2号機の基礎工事		2		
		21	麦茶焙煎・草取り		3		6	ミズコンポスト2号機の製造工事		2		
		22	麦茶バック詰め・収穫祭準備		7		12	ミズコンポスト2号機の製造工事		2		
		24	午前ジャガイモ収穫祭・麦刈り		30		21	麦踏み体験・菊芋掘り・同上		6		
		24	午後ライ麦刈り・脱穀		7		28	堆肥の熱乾燥装置の材料調達		1		
		31	黒小豆畑草取り		7	3	5	農場お祝い・麦踏み・2号機屋根作り		5		
	実績	8	1	安茂里自治協生ごみ減量講座		20		6	堆肥切り返し・ブラゴミ拾い		1	
			7	草取り・トウモロコシ掛け		2		9	耕運作業		1	
			11	黒小豆畑草取り		2		15	2号機に藁ストック棚作り		1	
		12	黒小豆畑草取り・誘引		1		16	温床にナス・トマト種まき		1		
		17	黒小豆畑草取り・誘引		5		23	種ジャガイモ植付準備・堆肥作り		2		
		19	耕運作業・草刈り		4		27	種ジャガイモ植付・枝豆苗床・草取り		12		
		21	ミズコンポストの堆肥篩い		1	4	4	玉ねぎ追肥・草取り・草もみ耕運作業		2		
		30	黒小豆収穫		4		10	決算報告の準備		1		
9		1	草刈り・畝作り		2		12	信大地域環境演習ガイダンス		4		
		5	秋野菜種まき		3		16	耕運作業・種まき準備・堆肥準備		2		
		6	黒小豆収穫・中島菜種まき		2		18	枝豆植え付け・春野菜種まき		7		
		16	黒小豆収穫・草取り		4		24	堆肥の熱処理装置製作・耕運作業		2		
		17	黒小豆収穫・ニンク植付け・施肥		3		25	市民の森よりベンチ材料提供・設置		4		
		24	落花生草取り・鉄板囲い		2		30	春野菜の苗揃半より提供		2		
10		3	秋野菜うろ抜き・草取り		3	5	1	春野菜の苗植付け		4		
		9	もち麦精麦		3		6	枝豆苗植付け		1		
		11	朝市出店		1		8	夏野菜苗仕入れ・ハセリ植え付け・草取り		2		
実績			16	堆肥切り返し・サツマイモ試し掘り		1		10	豆植え付け準備・草取り		1	
			18	サツマイモ・秋野菜収穫・草取り		6						
			29	サツマイモ収穫・堆肥整理		2						
			31	玉ねぎ苗植付け・秋野菜収穫		5						
		11	3	耕運作業		1						
			9	玉ねぎ植え付け追加		3						
		15	大根掘り・秋野菜収穫		11							
		21	大根・菊芋掘り		5							
		23	大根・秋野菜の収穫祭・麦種まき		17							
	一年間の活動・参加者数										304	
成果・課題	＜活動の成果・課題＞ ・成果としては、台風19号の水害から復旧し、スタッフの頑張りで農場の整備が進み、生ごみ堆肥の量産化と共に農作物の栽培環境を充実出来たことです。特に生ごみをたい肥化するミズコンポスト2号機を作製し、生ごみを持ってきた家族会員に生ごみ堆肥を提供する事が出来るようになり、食と農の循環システムが動き出しました。一方で生ごみ堆肥化の啓蒙活動や収穫祭の一般参加者公募がコロナ対策により阻まれて、新規会員の増員が見込まれず8家族に減少したままです。 ・そこで、コロナ対策による自粛生活が内食の増加や食品ロス見直しにより、生ごみの減量に目を向けるために、どのような発信が有効かを考えることが必要です。特に我々高齢者が苦手としているSNSやインターネットによる情報発信を積極的に使うにはどうしたら良いかというのが課題です。 ・環境だけでなくSDGsの面から、生ごみ減量生活が持続可能な社会に繋がることを伝えたい。											
	長野市協力課等 取組内容											
	生活環境課 定例会にて協議フォロー、信州環境フェア・キッズ農園のイベント補助など											

令和2年度活動報告書										6 15 17		
プロジェクト名			市民の森づくり【リーダー:片桐 勝治】									
理想の街	四方を山に囲まれた長野市には手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち											
	数値目標	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに500人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、“ゼロ災”とする										
行動計画	・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりへの検討を重ねる。 ・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。 ・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。											
活動計画	・森林整備(6～12月、4、5月) ・趣味の林業講座(6～9月) ・秋の里山散策(10月) ・高校生の森林整備体験、工作体験、自然観察(6月、8月、10月) ・里山遊び(かんじき体験)(3月) ・きのこの駒打ち体験(4月) ・仮称第二の市民の森候補地の実施計画立案 ・事業者、他団体との協力、連携を図る											
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数				
	6	21	森林整備作業	5	12	5,12	森林整備作業(定例外日含む)	15				
		25	定例会議	6	1	11	森林整備作業	6				
	7	18	森林整備作業(定例外日含む)	21		28	定例会議	8				
		29	定例会議	8	2	21	かんじき体験会(中止)					
	8	6	市民の森総会(リモートにて実施)			25	定例会議	6				
		8,23	森林整備作業(定例外日含む)	26	3	25	定例会議	6				
		28	定例会議	8	4	10	森林整備作業(定例外日含む)	18				
	9	12,27	森林整備作業(定例外日含む)	33		25	きのこの駒打ち(体験会は中止)	17				
		24	定例会議	8		26	定例会議	7				
	10	14	北部高校森林整備体験	23	5	8	森林整備作業	9				
		24	森林整備作業(定例外日含む)	16		23	森林整備作業(定例外日含む)(予定)	20				
		25	秋の里山散策	28		27	定例会議	10				
		26	定例会議	5								
	11	14,29	森林整備作業(定例外日含む)	20								
		25,28	定例会議他	16								
	一年間の活動・参加者数								345			
成果・課題	《活動の成果》 本年度は、高校生の森林整備体験、里山散策は出来たものの、かんじき体験会、きのこの駒打ち体験会、山の日ウォーキング等での工作体験、趣味の林業講座(伐木造材補講のみは実施)など、コロナ禍の影響で軒並み中止や一般参加の取止めとなってしまった。従って、活動参加者は目標の500名を達成する事が出来なかった。しかし、環境保全研究所との協働にて「環境保全研究所の森の整備」を実施して行く事となり、他団体との協力連携が一步進んだ。											
	《今後の課題》 活動参加者の固定化傾向のある中、更なる活動の広がりや、活動の多様性を考えると会員数の増加は必要である。他のチームなどとも協力し、体験会なども活用の上、活動の輪を広げて行きたい。 安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業を進める。											
	長野市協力課等		取組内容									
森林農地整備課		森林整備、林業講座(補講)										

令和2年度活動報告書												
プロジェクト名				子どもの環境学習支援								
理想の街	子どもエコクラブで主に小学生が親と一緒に活動し、中高生になったら「ユースクラブ」で自主的に環境活動をおこない、環境団体との連携も図られているまち											
	数値目標	第9回国際ユース環境会議の参加者16名(ユース10名)										
行動計画	第9回国際ユース環境会議を開催し、ユースと環境団体との連携を図る											
活動計画	第9回国際ユース環境会議開催のための活動 ・開催要項の作成、後援依頼、 ・現地下見、 ・チラシ作成、配布 ・報告書作成、送付など											
活動実績	月	日	内容		人数	月	日	内容		人数		
	6	8	例会		4							
		21	Zoomで例会		6							
		27	Zoomで例会		6							
	7	10	Zoomで例会		4							
		19	例会		8							
	8	4	鍊成センター下見		3							
		28	Zoomで例会		6							
	9	11	チラシ印刷・配布		3							
		25	最終打ち合わせ		6							
	10	3	長野で国際ユース 145		16							
		4	小田切で国際ユース環境会議		14							
	11	9	反省会		6							
一年間の活動・参加者数									82			
成果・課題	《活動の成果・課題》 1 成果 2020年10月3～4日の日程で、国際ユース環境会議を開催した。3日は市内の会場と東京、広島など県外からのZoom参加も含めて16名で、「ゴミって何？」をテーマに身近から世界まで幅広く考え、英語で発表した。班毎のワークショップで「ゴミ捨てを減らすには」を討論し意見発表の後、フィリピンのゴミ山の子どもの紹介があり、世界ではゴミが大きな社会課題となっている現状を学んだ。4日は小田切の鍊成センターに集まり、脱プラの素材として竹を用いて昔ながらの遊びの竹とんぼを作り飛ばした。昼にはシカなど野生動物の現状を学び、シカ肉でBBQを楽しんだ。午後には2日間の学びを「未来への手紙」としてまとめ、来年への希望をつづって解散した。 コロナの流行下でもLINEやZoomでの例会や打ち合わせすることで学業で忙しいユース間の連絡連携を図ることができた。また、本番でも東京など県外のユースの参加も得ることができ、次回の国際ユース環境会議の企画への参画の端緒を築くことができた。 2 課題: 今年も国際ユース環境会議をユースの熱意で開催できたが、支援メンバーの不足など長期的な支援と継続の仕組みを確保する必要がある。オンラインを活用して長野市外や県外などへの普及と働きかけが今後の課題である。											
	長野市協力課等				取組内容							

令和2年度活動報告書										
プロジェクト名		小生物の育成環境保全プロジェクト								
理想の街	オオムラサキの里(竹ノ入)の学習林としての環境整備を進めて30年近くになり、当初の目的に近づいてきた。各学校の総合学習、コミュニティスクールを通じて環境教育の啓発に学校から認められてきている。近隣の住民からも環境整備の応援を頂くようになった。オオムラサキ・ジャコウアゲハ・アサギマダラ・アゲハチョウなど随時観察できる環境になってきている。癒しの森として次世代につなげたい。									
数値目標	里山の生物全体の育成環境整備に努めカブトムシ・クワガタムシの発生を促す。また、フクロウの生息が確認できたので巣箱をかけて定着をはかる。									
行動計画	1. 竹ノ入に生息する生物の調査を進めるため観察用カメラを設置する。 2. カブトムシ・クワガタムシの育成床を設置し、拡充を図る。カブトムシは既に設置し昨年は50匹ほど発生した。 3. 生物の頂点にいるフクロウの定着を促すため巣箱を増設する。 4. 巨木になったエノキの間伐をして空間を増やし、光が入る明るい森にする。迷惑木、外来種のニワウルシの除伐をさらに進める。 5. 各小学校に設置したオオムラサキ育成塔の整備を図り随時観察できる環境づくりをしてきた。子供たちが関心をもつような誘引施設の拡充と定着を図る。環境教育の原点はここにあると思う。									
活動計画	1. オオムラサキ観察会の実施 2. 竹ノ入に生息する生物の調査。 3. カブトムシ・クワガタムシの育成床の設置。 4. 生物の頂点にいるフクロウの定着を促すため巣箱を増設。 5. 巨木になったエノキの間伐をして空間を増やし、光が入る明るい森にする。 6. 各小学校に設置したオオムラサキ育成塔の整備。									
活動実績	月	日	内容		人数	月	日	内容		人数
	6	24	テント設置作業		8	3	12	竹ノ入除伐材整理作業		2
	7	2	松代幼稚園観察会		68	3	14	竹ノ入除伐材整理作業		2
	7	3	東条小学校観察会		57	3	16	オオムラサキ幼虫保護袋作り		4
	7	3	まきば保育園観察会		97	3	24	竹ノ入草刈り作業		3
	7	5	一般市民対象観察会		193	3	25	除伐材整理作業		3
	9	8	テント撤収作業		3	3	26	エドヒガン観賞用階段手摺設置		3
	9	9	定期総会 事前会議		9	3	30	転落防止柵設置作業		2
	9	13	定期総会 伝承館		19	4	1	松代各小学校幼虫保護作業		4
	11	29	飼育舎網外し		4	4	3	飼育ハウス網掛け作業他		7
	2	7	観察会用幼虫捕獲作業		4	4	4	竹ノ入エドヒガン鑑賞会		14
	2	16	フクロウ用巣箱掛け作業		4	4	6	西条小学校エノキ調査		3
	2	27	竹ノ入除伐材整理作業		4	4	7	西条小学校幼虫網掛け		3
	3	8	竹ノ入除伐材チップ作業		3	4	8	ウマノスズクサ、フジバカマ草取り		2
	3	9	ウマノスズクサ捕植作業		3	4	13	松代各小学校幼虫調査		3
	3	9	フクロウ用巣箱掛け作業		3	4	25	活動方針打合せ会議		8
一年間の活動・参加者数									542	
成果・課題	《活動の成果・課題》 学校が総合学習・コミュニティスクールの時間で利用して頂けるようになった。近くのまきば保育園が随時園内に入り利用していただけるようになった。遠方の松代幼稚園もオオムラサキの見学に訪れ自然保護教育の一助になってきている。最近親子連れの訪問者が来るようになり、お土産にカブトムシをあげたりしている。課題は随時園内に入れるよう安全・安心の森作りに務め、生息する生物の「見える化」に取り組む。また、高齢者集団の中に若い集団が参画しやすい組織のありかた、雰囲気作りに取り組む遊び心が必要である。									
長野市協力課等			取組内容							

令和2年度活動報告書								
プロジェクト名		生態系豊かな、水に親しめる川づくり 【リーダー:酒井 今朝重】				6 水環境を大切にし、水質を向上させよう 17 パートナリシップで、環境を良くしよう		
理想の街	市街地を流れる川には清らかな水が流れ、多くの生き物が生息し、周辺を散策する人々が心いやす水辺を備えた町							
数値目標	① 生態系豊かで、水に親しめる川づくりの活動に向けた、行動方針を検討する。 ② ながの環境パートナーシップ他の団体の活動に協力する。							
行動計画	① 長野市主催の環境学習会水生生物調査「夏の川遊び1, 2」への協力 ② 市内に建設されている親水公園・水路の現地確認を実施 ③ 公開学習会2021及び第10回ながの環境団体大集合への参加							
活動計画								
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
	7	23	水生生物調査「夏の川遊び1」	3				
			荒天のため開催中止					
	7	31	水生生物調査「夏の川遊び2」	3				
	10	4	市内の親水公園・水路の現地確認	3				
一年間の活動・参加者数							9	
成果・課題	プロジェクトチームの活動復活及び新規事業開発を検討したが新年度への継続となった。							
長野市協力課等		取組内容						

令和2年度活動報告書													
プロジェクト名			ゴマシジミ保護・育成【浅川地区住民自治協議会】										
理想の街	「ふるさと創生」活動の一環として地区内住民の意識の高揚とボランティア参加の醸成を図り浅川の特徴である中山間地と平野部の融合を徐々に深め、また子ども達からお年寄りまでの交流を図り次世代への財産として繋がればと考えている。まちづくり計画に位置している「ゴマシジミの保護・育成」をどうして里山の整備、自然環境の保全の大切さを学んでいければと継続的な活動を行う。												
	数値目標	1) 小・中学生を含め地元愛好家・ボランティア組織の参加を仰ぎ年間延べ200名位を目安に活動を行う。 2) 生息地の植栽(ワレモコウ)を延100名位で行う。 3) 生息地のパトロールを7月25日から8月末まで巡回パトロールを行う。(延80名)											
行動計画	・他動植物との関連 ・シワクシケアリの発見 ・ワレモコウの発芽と植栽 ・各関係機関と協力し共生昆虫の調査を行う												
活動計画	・ワレモコウの栽培(現地採取の種をまき栽培)4月中旬 ・生息地の草刈り間伐(年間4回) ・生息地のパトロール(ローテーションによる)「7月末～9月中旬」												
活動実績	月	日	内容			人数	月	日	内容			人数	
	5	1	草刈り			7	9	4	ゴマシジミ生息調査			2	
	6	25	草刈り			7	9	9	ゴマシジミ生息調査			2	
	7	27	看板設置(各エリア)			5	9	15	ゴマシジミ生息調査			2	
	8	1	早朝パトロール(開始)			3	9	24	監視カメラ撤去作業			3	
	8	4	ゴマシジミ生息調査(初確認)			2	10	7	看板・ロープ回収			7	
	8	7	監視カメラ設置作業			3	10	18	ワレモコウ移植			10	
	8	9	ゴマシジミ生息調査			2	10	29	浅川小チャレンジ勉強会			70	
	8	10	ゴマシジミ生息調査			2	11	16	ワレモコウ種採取			3	
	8	11	ゴマシジミ生息調査			2							
	8	17	ゴマシジミ生息調査			3							
	8	18	ゴマシジミ生息調査			2							
	8	20	ゴマシジミ生息調査			2							
	8	23	ゴマシジミ生息調査			2							
	8	25	ゴマシジミ生息調査			2							
	8	28	ゴマシジミ生息調査			2							
	成果・課題	一年間の活動・参加者数										145	
《活動の成果・課題》 生息数は現状維持(1日最大23匹の個体を確認)だったが、活動をつづけ生息環境の観察とゴマシジミの生態系の研究を更に取り組み将来への布石としたい。また地元の資産として子供から大人まで感心をもってもらい継続性のある活動を目指したい。そのために浅川小の児童の育てたワレモコウを移植する活動等行う。													
長野市協力課等			取組内容										
長野市開発公社			長野市霊園での保護活動										
浅川小学校			ワレモコウの育苗・植栽										

令和2年度活動報告書										15 環境 まちづくり 推進 事業	17 パブリック・スペース 活用 事業	
プロジェクト名			田中桜公園作り&里山づくりプロジェクト									
理想の街	若槻地区田中の桜公園作りを推進力に里山を里山らしく利用、保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育ち定着する持続可能な地域作り・協力し支え合う地域・まち											
数値目標	参加目標250名											
行動計画	(前期)「こういう風な散策路を作りたい」と思える構想を練る。次に、構想の固まった部分から散策路を実際に作り始める。8月、昨年度の学生ボランティア団体が今年も来ることになれば、一緒に散策路設置整備の活動に参加をお願いする。今年は、夏崎の花壇づくりを行うとともに、春咲きの花壇も充実するように花壇づくりを行う。また、東屋づくりの計画を練る。 (後期)冬場は桜公園祭りの準備をしながら春を待つ。3月初め、散策路づくり・いのしか被害防止のためネットで差黒の樹皮を守る。4月桜祭り実施。											
活動計画	案の募集 設計 検討 作成を一貫しておこなう。 桜公園の整備、斜面の断裁、伐採樹木の未処理・積み上げ状態の解消を行い、遊歩道設置を進める。特にベンチや階段の作成設置をすすめる。											
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数				
	6	6	桜公園花壇ドーム菊苗植え	5	4	1~18	桜祭り	140				
		15	コロナ禍による計画変更検討	3								
	7	中旬	コロナ下での計画変更会員意見収集	40								
		20	計画変更協議決定	5								
	9	7	秋の作業計画実行案作成	3								
	10	12	秋の作業計画準備検討	4								
	11	1~3	雑木・つるの伐採処理	5								
		7,8	伐採木の処理	12								
		14~23	パワーショベルで切り株伐根	36								
		28,29	整備作業とベンチづくり	10								
	2	8	春の作業イベントの計画立案	3								
	3	20,21	整備作業	10								
		27,28	田中桜公園だより作成配布	2								
		27,28	階段設置作業	6								
一年間の活動・参加者数								284				
成果	(成果) 本年度、予算をいただき、①雑木やツタの除去・切り株の除去・散策しやすいようになだらかに整地をすることができた。②整備のために切り倒した気を使ってベンチを設置。そして、階段も設置。と、より公園らしい整備を行うことができた。また、春咲きの草花の花壇に、菊を植えて秋も楽しめるようにしたこと。 (結果) ①となり地区にある保育園の年長児の散歩コースになった。 ②コミュニティ若槻の会報で、「グリーンクラブで育てた苗が、桜の名所・田中桜公園に植えられた」などと取り上げていただき、桜の木の成長と公園整備が相まって、広く認知されてきた1年だった。 (課題) コロナ禍の中、作業・イベントの工夫が求められる。											
課題												
長野市協力課等			取組内容									

令和2(2020)年度 ながの環境パートナーシップ会議 収支決算書

収入合計	2,837,281 円
支出合計	2,101,209 円
差引額	736,072 円

収 入 単位: 円

内 容	2年度予算額	流 用 額	予算現額	収入 済 額	収入済額－予算現額	主 な 内 訳
I 負担金・会費	1,091,000		1,091,000	1,081,000	△ 10,000	
1 負担金・会費	1,091,000		1,091,000	1,081,000	△ 10,000	長野市負担金1,000,000円、会費
II 事業収入等	698,000		698,000	695,598	△ 2,402	
1 事業収入	210,000		210,000	209,287	△ 713	バナー広告料、緑の公営事業交付金
2 雑収入	60,000		60,000	58,311	△ 1,689	寄付金、預金利息
3 助成金	428,000		428,000	428,000	0	トヨタ環境活動助成プロジェクト(2年目)
III 繰越金	1,060,683		1,060,683	1,060,683	0	
1 繰越金	1,060,683		1,060,683	1,060,683	0	
合 計	2,849,683	0	2,849,683	2,837,281	△ 12,402	

支 出 単位: 円

内 容	2年度予算額	流 用 額	予算現額	支出 済 額	予算現額－支出済額	主 な 内 訳
I 活動費	95,000	0	95,000	25,000	70,000	
1 自主事業活動費	60,000	0	60,000	0	60,000	
2 共催・参加事業活動費	35,000	0	35,000	25,000	10,000	長野エコ活動推進本部、ライトダウンキャンペーン
II プロジェクト活動費	2,072,000	0	2,072,000	1,925,859	146,141	
1 生ごみ削減・再生利用	498,000	0	498,000	498,000	0	
2 市民の森づくり	466,000	0	466,000	465,405	595	
3 太陽エネルギー普及促進	30,000	0	30,000	0	30,000	
4 聖山自然復元	0	0	0	0	0	
5 子どもの環境学習支援	20,000	0	20,000	10,000	10,000	
6 ながのカーボンオフセット	0	0	0	0	0	
7 小生物の育成環境保全	536,000	0	536,000	536,000	0	
8 生態系豊かな、水に親しめる川づくり	40,000	0	40,000	0	40,000	
9 ぼんすけ育成	0	0	0	0	0	
10 ゴマシジミ保護・育成	0	0	0	0	0	
11 田中さくら公園作り&里山づくり	432,000	0	432,000	416,454	15,546	
12 新規プロジェクト	50,000	0	50,000	0	50,000	
III 保険料	60,000	0	60,000	52,500	7,500	
1 保険料	60,000	0	60,000	52,500	7,500	ボランティア活動保険料
IV 広報費	145,000	0	145,000	60,424	84,576	
1 啓発・報告書等費	120,000	0	120,000	52,640	67,360	新聞広告掲載料
2 ホームページ維持費	25,000	0	25,000	7,784	17,216	ホームページサーバー利用料
V 事務局費	85,000	0	85,000	37,426	47,574	
1 事務局運営費	85,000	0	85,000	37,426	47,574	振込手数料
VI 予備費	392,683	0	392,683	0	392,683	
1 予備費	178,683	0	178,683	0	178,683	
2 助成金	214,000	0	214,000	0	214,000	
合 計	2,849,683	0	2,849,683	2,101,209	748,474	

監 査 報 告 書

令和3年6月3日

ながの環境パートナーシップ会議

代表理事 金 井 三 平 様

ながの環境パートナーシップ会議

監 事 小山 勝宏 ㊞

監 事 小林 清一 ㊞

私たちは、令和2年6月1日から令和3年5月31日までの令和2年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査方法の概要

- (1) 会計監査については、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて収支決算書及びその附属明細書並びに財産目録の正確性を検討した。
- (2) 業務監査については、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 収支計算書及びその附属明細書は、令和元年度の収支状況を正しく示しているものと認める。
- (2) 財産目録の内容は真実であると認める。
- (3) 事業報告書及びその附属明細書の内容は真実であると認める。
- (4) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令もしくは会則に違反する重大な事項はないと認める。

以上

令和3(2021)年6月1日

令和3(2021)年度運営方針(案)

ながの環境パートナーシップ会議 代表理事 金井 三平

ながの環境パートナーシップ会議(以下「P会議」という)は、「アジェンダ21 ながの - 環境行動計画 - 2018」(以下「アジェンダ21 ながの」という)に掲げる長野市の環境ビジョン『山にみどり・川に清流・谷に風・空に星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの』の実現に向けて行動します。

令和2(2020)年度は、世界がよりよい未来を迎えるために果たす目標として、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)※」(以下「SDGs」という)の達成を地域からパートナーシップで実現するため、P会議及び各プロジェクトチームがSDGs達成への貢献を意識しながら環境活動を推進しました。しかし、令和元年東日本台風や新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、令和元(2019)に引き続き活動が困難だった年でもありました。

令和3(2021)年度は、活動を停滞させることなく、さらにSDGsへの理解を深めるため、P会議及び各プロジェクトチームがSDGs達成への貢献を意識しながら環境活動を推進していきます。

また、プロジェクトサポーター制度を推進するとともに、活動成果報告書やホームページ、SNSなどの広報ツールを活用し、事業者を含む新規会員を確保することで、P会議の活性化を更に進めていきます。

「つなぐ・伝える・行動する」活動は、市民・事業者・行政との協働を拡大させ、地域の豊かな環境を持続させるために取り組みます。

具体的な行動として

1 「アジェンダ21 ながの」を推進します

「アジェンダ21 ながの」に基づき、長野市域で環境問題に取り組む市民・事業者・団体・行政との更なる協働による環境活動を推進します。

令和3(2021)年度は、P会議と各プロジェクトの連携強化による活動の充実(行動する)とともに、その活動を広く発信(伝える)し、次世代につながる(つなぐ)発展的な行動により、環境ビジョンの実現を目指します。

(1) P会議とプロジェクトチームの連携強化と環境活動の充実を図ります(行動する)

「アジェンダ21 ながの」の趣旨に沿った活動に取り組む外部団体・事業者と

の共催や参加などを通じ、協働の拡大を図ります。

① 主催事業の開催

令和3（2021）年度は、昨年度開催することができなかった、ながの環境団体大集合について、若者が参画するスペシャルプロジェクトチームを早期に組織し、団体・事業者・学校やプロジェクトチームなどの環境活動を「つなぐ・伝える・行動する」場として、各団体の活動の相互理解が推進され、更には、新規会員の入会につながるよう、充実した主催事業を展開します。

② 他団体との共催・参加・支援

各団体との共催や環境活動へ参加及び支援を通じて、若い世代や市民・事業者などにP会議の活動を広く発信し、協働による活動の参加を呼び掛けます。

（例）信州環境フェア、長野市環境こどもサミット、アレチウリ駆除作業、ごみひろい運動、山の日ウォーキング、信州大学地域環境演習、地域づくり出合いのひろば、地域まるごとキャンパスなど

③ 理事会とプロジェクトチームの連携強化

理事会とプロジェクトチームの連携を強化し、一体となって環境活動を進めていくため、合同会議を適宜開催します。理事会がプロジェクトチームの活動を把握し、各プロジェクトの連携等助言及び支援することでプロジェクトチームの活動の充実を図ります。

④ 「脱 使い捨てプラスチック」を目指すための調査研究

プラスチックゴミによる海洋汚染の懸念から使い捨てプラスチック製品の使用削減が世界的に進んでいることを受け、長野市域におけるリユース食器の導入・普及促進や麦ストローの製造・普及促進などについて調査研究を関係機関とともに進めます。

⑤ 気候変動によって発生する問題の解決に向かった取り組み

長野市の台風19号による千曲川の浸水被害は甚大なものであり、今後も起こりうることを考えられます。二酸化炭素を減らすために、市民・事業者・行政のそれぞれが危機感を持って再生可能エネルギーを積極的に導入し、森林や里山、水環境資源の適切な管理を行うことを目指します。

（2）ながの環境パートナーシップ会議の活動を広く発信します（伝える）

P会議及びプロジェクトチームの活動状況と成果を活動成果報告書「手をむすんで」にまとめ、P会議の活動をより積極的にアピールします。また、ホームページなどに加えて、SNS（フェイスブック）を活用し、市民・事業者・団体などに広く情報発信を行ない、環境意識の啓発に努めるとともに新規会員の入会につなげます。

(3) 次世代につながり成果の見える活動を行います（つなぐ）

目標である長野市の環境ビジョンの実現に向けた活動を強化するため、プロジェクトサポーター制度を更に推進し、団体や事業者との協働の拡大を図るとともに、世代をつないだ活動基盤を構築するため、特に次世代の若者との協働による活動を進めます。

2 持続可能な環境パートナーシップ会議を目指します

P会議の活動が今後も持続するために、次の項目を実施します。

(1) プロジェクトチームを充実・拡大します（行動する）

自由な発想で楽しみながら取り組める環境活動の提案を積極的に受け入れ、P会議の新規プロジェクトとして立ち上げていくなど組織の拡充を図ります。

(2) 仲間づくりの推進と会員の増員を図ります（行動する）

充実した環境活動を行っていくためには、市民・事業者・専門家・若者など、多様な知見・能力を有している方々の集積が必要です。会員・プロジェクトチーム・理事会が協力し、また、それぞれの立場で仲間づくりを進めるとともに、会員の増員を図ります。

(3) 新規会員等を対象にした研修会を開催します（行動する）

P会議の活動をより理解していただくとともに、協働による事業展開を推進していくため、引き続き新規会員や事業者を対象にした研修会を開催します。

(4) 充実した活動を実行するために活動資金を確保します（行動する）

市負担金の増額をお願いするとともに、各プロジェクトチームでの環境活動支援団体の助成金、企業等からの寄付金・協賛金を積極的に活用します。

※【 参 考 】

SDGsとは・・・

2015 年(平成 27 年)9月、国連において、新たなアジェンダとして「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは、人類の発展や地球の繁栄のため 2030 年までに達成すべき行動計画として、宣言と目標を掲げたものです。

この目標が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals 略して SDGs(エスディー ジーズ))」であり、これまでのアジェンダ 21 やミレニアム開発目標(MDGs)」などの理念と成果を 土台に、豊かさを追求しながら地球を守ることを呼びかける 17 の目標と 169 の行動計画で構成 され、「誰一人取り残さない」という理念のもと、環境問題と経済発展を両軸に、先進国、発展途 上国を含めた全ての国々に持続可能な世界に向けての変革を求めています。



◎令和3年度活動目標・活動計画・予算書(案)

	ながの環境パートナーシップ会議(事務局)							
理 想 の 街 (目 指 す 姿)	山にみどり・川に清流・谷に風・空に星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの							
R3	目標・数値目標			行動計画				
	地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐ			・アジェンダの進捗管理を通じ、環境保全活動を推進していく。 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。				
R4	目標・数値目標			行動計画				
	地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐ			・アジェンダの進捗管理を通じ、環境保全活動を推進していく。 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。				
R5	目標・数値目標			行動計画				
	地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐ			・アジェンダの進捗管理を通じ、環境保全活動を推進していく。 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。				
数 値 目 標 (長 期)	環境保全活動参加者数：4,700人(第2次長野市環境基本計画 後期計画 R3年度目標値)			令和3年度目標活動参加人数				
				4,700 人				
(支出の部)								
	区 分		実施予定	予 算 額	内 訳		金 額：円	
本年度活動計画	A	活動費	未定 未定	75,000	1. 自主事業活動費		60,000	
					ながの環境団体大集合			30,000
					公開学習会			30,000
			6月 10月 3月	2. 共催・参加事業活動費		15,000		
				長野エコ活動推進本部年会費			3,000	
				山の日ウォーキング			10,000	
	B	保険料	通年	49,000	1. ボランティア保険(年@350×140人)		49,000	49,000
	C	広報費	通年	145,000	1. 啓発・報告書等費		120,000	
					レジ袋啓発活動用パンフレット印刷費			80,000
			通年		広告料(新聞)		40,000	
					2. ホームページ維持費		25,000	
	レンタルサーバー利用料・ドメイン利用料		9,000					
	facebook管理費		16,000					
	D	事務局費	通年	85,000	1. 事務局運営費		85,000	
事務消耗品費・振込手数料					20,500			
活動成果報告書送料(＠250×50人)					12,500			
R2総会通知 (出欠席葉書・郵送料)					26,000			
E	予備費		388,272	1. 予備費		388,272	388,272	
							0	
支 出 予 算 額 合 計				742,272	支 出 積 算 額 合 計		742,272	
(収入の部)								
	区 分		実施予定	予 算 額	内 訳		金 額：円	
本年度活動計画	A	負担金・会費	通年	1,085,000	会費(＠500×170人)		85,000	
					市負担金 1,000,000円		1,000,000	
	B	事業収入等	通年	120,000	1. 事業収入		60,000	
					ホームページバナー(＠15,000×4社)			60,000
					2. 雑収入		60,000	
					寄付金			59,000
					利子		1,000	
					3. 助成金		0	
	C	繰越金		736,072	1. 前年度繰越金		736,072	736,072
	収 入 予 算 額 合 計						1,941,072	

◎令和3年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		生ごみ削減・再生利用プロジェクト					
理想の街 (目指す姿)		・市民一人ひとりが地球環境の悪化を懸念し、生ごみの削減・再生利用につとめ、排出量は以前と比べ大幅に減っているまち ・生ごみの大半がリサイクルされ有機循環システムの推進、可燃ごみが大幅に減少しているまち ・地域ごとに多くの市民が生ごみの減量化・再資源化に取り組む地域循環型のまち					
		目標・数値目標		行動計画			
R3	・生ごみの堆肥化と再生利用を地域住民と一体になって取り組める方法を引き続き模索し実践する。 ・キッズ生ごみ農園クラブの会員増(目標値30名)を目指し、収穫祭などで生ごみと野菜の交換市を充実させる。堆肥製造量の目標値は、1000kgを目指す。また、野菜の販売により自主財源率は予算の8%を目標値とする。一方で、収穫祭に一般公募ができない場合は、生活困窮学生へ野菜の提供をする。 ・長野市の生ごみ減量の数値目標としては、可燃ごみ総量に対する生ごみの割合を35.6%に削減する。(今年もコロナ感染の自粛生活で生ごみ総量が増える可能性あり厳しいが自家処理に期待)		・コロナ対策のため展示が許せば、生ごみ減量活動の周知と市民への啓発に努める。 ・キッズ生ごみ農園では、子育て世代の家族会員を増やし、会員には、生ごみの持参で生ごみ堆肥を製し農作物栽培に活かす。収穫祭では、会員活動の充実により食と農の循環を実感してもらう。 ・コロナ対策のより自主財源獲得の機会に限られるので、収穫野菜を困窮学生に提供する計画である。 ・麦の試験栽培を続け、麦ストローの生産に適した種を選び、脱プラスチック運動に活かす。精麦後は、麦粉や麦茶に加工して会員に配布し、残りは困窮学生に無償提供する計画である。				
	目標・数値目標		行動計画				
R4	・生ごみの堆肥化と再生利用を地域住民と一体になって取り組める方法を模索し実践する。 ・キッズ生ごみ農園クラブの会員増を目指し、生ごみの減量と野菜栽培を定着して取り組めるように収穫祭や野菜と生ごみの交換市を充実させる。また、野菜と堆肥の販売により自主財源を確保する。 ・長野市の生ごみ減量の数値目標としては、可燃ごみ総量に対する生ごみの割合を35.4%を目指すよう応援する。		・生ごみ堆肥化による生ごみ減量の啓もう活動の情報発信。 ・キッズ生ごみ農園クラブの会員募集、生ごみと野菜や堆肥との交換を周知発展させる活動。 ・「キッズ生ごみ農園クラブ」の維持管理と自立活動。 ・子供のための一坪農園とミズコンポストを食農教育・環境教育に発展させる。				
	目標・数値目標		行動計画				
R5	・生ごみの堆肥化と再生利用を地域住民と一体になって取り組める方法を模索し実践する。 ・キッズ生ごみ農園クラブの会員増を目指し、生ごみの減量と野菜栽培を定着して取り組めるように収穫祭や野菜と生ごみの交換市を充実させる。また、野菜と堆肥の販売により自主財源を確保する。 ・数値目標は、可燃ごみ総量に対する生ごみの割合を35.2%を目指すよう応援する。		・生ごみ堆肥化による生ごみ減量の啓もう展示活動 ・キッズ生ごみ農園クラブの会員募集、生ごみと野菜の交換市を周知発展させる活動 ・「キッズ生ごみ農園クラブ」の維持管理と自立活動をさらに展開する。 ・子供のための一坪農園とミズコンポストを食農教育・環境教育を地域の活動として取り組めるようにする。				
	数値目標 (長期)		令和3年度目標活動参加人数 500人以上				
		区分	予算(支出の部)	予定月	説明	金額	
本年度活動計画		A	他団体等への働きかけ ・各地区自治協等の地縁団体を通じて地域住民への啓蒙活動 ・生ごみ堆肥化講座と生ごみ堆肥で育てた野菜のお料理教室(エコ料理)(春・秋の年2回×2自治協)	5月～9月	生ごみ堆肥のコンテナ栽培	20,000	
					花や野菜栽培の見本の作成と教材費(コンテナ・用土・基材・苗等)	17,000	
B	市民への啓発 ・展示、講習会(〇〇環境フェア・アモーレフェスタなど)で使用 ・大豆島地域の地縁団体への働きかけ				6月～12月	食材の補助	3,000
		生ごみチームのパンフレット(1000部)	15,000				
		コンテナ栽培見本作成	15,000				
C	キッズ生ごみ農園クラブ ・家族会員(25家族目標)等を募集し一次生成物及び生ごみの受入れ ・生ごみ堆肥の製造と農作物を作る活動(堆肥場の整備とミズコンポストの分別) ・春・夏・秋に収穫祭の実施 ・麦ストロー作製のための資材 ・精麦・製粉 ・燃料代 ・農機具に掛ける保険 ・地代	通年	「生ごみ堆肥による地域循環」チラシ	5,000			
			会員募集用チラシ1000部	5,000			
			堆肥製造と堆肥場の整備	8,000			
			生ごみ堆肥の基材・種苗代	45,000			
			収穫祭用チラシ1000部	5,000			
			保険代Ⅰ(③50×50人)	17,500			
			洗剤・袋他	2,000			
			麦茶・もち麦に加工	8,000			
			ガソリン代・軽油代・混合油	45,000			
			保険代Ⅱ(農機具9台)	9,000			
D	月例ミーティングと農作業打合せ ・生ごみ削減・再生利用の市民への啓もう ・地縁団体への生ごみ堆肥利用の推進 ・生ごみ堆肥作製の講習会の企画、運営	5月～9月	資料代(印刷費)	10,000			
			学生への教材	8,000			
			支出合計		252,500		
		区分	(収入の部)				
		A	収穫祭の参加費500×20	5月～11月	収穫祭(野菜・軽食・保険代)	10,000	
		B	野菜の販売	7月～11月	直売	7,000	
		収入合計					17,000

収支合計 ▲ 235,500

◎令和3年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		市民の森づくりプロジェクト			
理想の街 (目指す姿)		四方を山に囲まれた長野市には手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち			
R3	目標・数値目標		行動計画		
	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに500人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、“ゼロ災”とする		・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりの検討を重ねる。 ・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。 ・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。		
R4	目標・数値目標		行動計画		
	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに500人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、“ゼロ災”とする		・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりの検討を重ねる。 ・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。 ・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。		
R5	目標・数値目標		行動計画		
	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに600人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、“ゼロ災”とする		・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりの検討を重ねる。 ・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。 ・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。		
数値目標 (長期)				令和3年度目標活動参加人数	
				500人以上	
	区分	予算(支出の部)	予定月	説明	金額
本年度活動計画	A	森林整備 林業講座	4月～12月	消耗品費(チェーンソー替刃、刈払機の替刃等)	30,000
				燃料費(チェーンソーのガソリン、オイル等)	20,000
				ユニック車他レンタル料金	20,000
				整備機材(チェーンソー等)	60,000
	B	秋の里山散策	10月	材料費	10,000
	C	きのこのコマ打ち体験会	4月	きのこの種駒等	15,000
	D	かんじき体験会	2月	かんじき材料(麻縄、針金等)	10,000
	E	工作・自然観察会	6月～10月	工作用材料(ボンド、マジック、金具等)	10,000
	F	AED消耗品	8月	蓄電池×1、パッド大人×1・子供×1	73,000
	G	傷害・賠償保険料(会員)	年間	保険料	50,000
	H	行事保険料(一般参加者)	年間	保険料(里山散策、コマ打ち、かんじき体験会等)	5,000
	I	会議用資料代	年間	コピー、印刷費等	10,000
	支出合計				313,000
	区分(収入の部)				
	A	秋の里山散策(B)	10月	参加費(保険料)(@200×20)	4,000
	B	きのこのコマ打ち体験会(C)	4月	参加費(保険料)(@200×20)	4,000
	C	かんじき体験(D)	2月	参加費(保険料、材料費)(@1000×15)	15,000
	収入合計				23,000

収支合計

△ 290,000

◎令和3年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		小生物の育成環境保全プロジェクト				
理想の街 (目指す姿)		身近な自然環境を守り後世に残すため、里山の小生物(オオムラサキ・カブトムシ・クワガタ)などの生育環境を再生し松代に自生するエドヒガン・野生モモが咲く豊かな自然環境の保全を目指す。オオムラサキ含めジャコウアゲハ・アゲハチョウ・キアゲハ・アサギマダラなどが自然に舞う環境の構築に努め啓発活動を進める。				
R3	目標・数値目標		行動計画			
	・小学生・中学生の総合学習の時間を使い自然観察会を年数回実施する。 ・市民に理解を計るため自然観察会を実施し啓発活動をする。 ・小中学校及び一般市民対象のオオムラサキ観察会を恒常的に開催する。		・小中学校自然観察会恒常的に行うシステムの構築。			
R4	目標・数値目標		行動計画			
	・小学生・中学生の総合学習の時間を使い自然観察会を年数回実施する。 ・市民に理解を計るため自然観察会を実施し啓発活動をする。 ・小中学校及び一般市民対象のオオムラサキ観察会を恒常的に開催する。		・小中学校自然観察会恒常的に行うシステムの構築。			
R5	目標・数値目標		行動計画			
	・小学生・中学生の総合学習の時間を使い自然観察会を年数回実施する。 ・市民に理解を計るため自然観察会を実施し啓発活動をする。 ・小中学校及び一般市民対象のオオムラサキ観察会を恒常的に開催する。		・小中学校自然観察会恒常的に行うシステムの構築。			
数値目標 (長期)	竹ノ入を中心にした学習林を軸に長野市の豊かな自然環境の保全を市民が共有できる環境思想の向上を図る。 オオムラサキの保全を通して、多くの人が環境問題に関心を持つように活動を推進する。			令和3年度目標活動参加人数		
				500人以上		
	区分	予算(支出の部)	予定月	説明	金額	
本年度活動計画	A	竹ノ入り整備作業に使用	5月～翌年6月	草刈り機	75,000	
		チェーンソーに使用		チェーンソーオイル 7本	7,000	
		竹ノ入り整備作業に使用		刈払機の刃 10枚	35,000	
		小生物保護活動に使用		照明器具、金網	26,000	
		小生物保護活動に使用		オオムラサキ・小生物飼料	3,000	
		フジバカマ・ウマノスズクサ育苗		肥料(化成肥料) 5袋	5,000	
		竹ノ入整備作業に使用		1本はしご	40,000	
		竹ノ入整備作業に使用		重機レンタル代	50,000	
		フクロウの巣の設置		フクロウの巣材料費	20,000	
		小生物保護活動・自然観察会に使用		発電機	90,000	
	B	「フジバカマ」育苗・植樹に使用	5月～翌年6月	培養土40ℓ入50袋	30,000	
		チェーンソー及び草刈り機に使用		燃料(ガソリン・混合油)	30,000	
		フジバカマ・ウイキョウ植栽地借地料		借地料(西澤宅)	10,000	
	C	共通事項(事務費等)	5月～翌年6月	葉書代	30,000	
		総会資料印刷代 他		インク・コピー用紙等	35,000	
		作業時飲料水代		作業時飲料水代	10,000	
		総会・役員会の会場費		会場費	10,000	
		観察会に使用するマイクセット		マイクセット	15,000	
		理事会・その他イベント参加の交通費		交通費	10,000	
	D	コロナ感染症対策(観察会等)	6月	アルコール・フェイスガード等	5,000	
	支出合計					536,000
	区分	(収入の部)				
	A					
	B					
	収入合計					0

収支合計

△ 536,000

◎令和3年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト			
理想の街 (目指す姿)		自然豊かにして清らかな川は大気土壌と動的平衡を保ち生物の多様性を潤す			
R3	目標・数値目標		行動計画		
	① 生態系豊かで、水に親しめる川づくりの活動に向けた、行動方針を検討する。 ② ながの環境パートナーシップ他の団体の活動に協力する。		① 長野市主催の環境学習会水生生物調査「夏の川遊び1, 2」への協力 ② 市内に建設されている親水公園・水路の現地確認を実施 ③ 公開学習会2021及び第10回ながの環境団体大集合への参加		
R4	目標・数値目標		行動計画		
	チーム独自の活動の実施		前年度の実施事業の課題等を検討し、目標を達成するために行動する。		
R5	目標・数値目標		行動計画		
	チーム独自の活動の実施		前年度の実施事業の課題等を検討し、目標を達成するために行動する。		
数値目標 (長期)				令和2年度目標活動参加人数	
				人以上	
	区分	予算(支出の部)	予定月	説明	金額
本年度活動計画	A	長野市主催の環境学習会水生生物調査「夏の川遊び1, 2」への協力	7～8月	胴付長靴	20,000
	B	公開学習会への参加 長野環境団体大集合絵の参加	10～12月	写真資料代	10,000
	C	運営費(市内小中学校や他チームとの連携)	通年	ガソリン代(500×4台×5人)	10,000
	D				
	支出合計				
区分	(収入の部)				
A					
B					
収入合計					0

収支合計

△ 40,000

◎令和3年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		田中桜公園作り&里山づくりプロジェクト				
理想の街 (目指す姿)		若槻地区田中の桜公園作りを推進力に里山を里山らしく利用、保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育ち定着する持続可能な地域作り・協力し支え合あう地域・まち				
R3	目標・数値目標		行動計画			
	参加目標260名 (前期)桜公園「広場」づくり着手、東屋の形・設計図の検討建設のための資金作り検討・申請 (後期)散策路の拡充・花壇拡充、東屋の基礎工事に進む。桜公園拡大のため、桜植樹計画と苗木申請、苗木の植樹会。		①散策路整備 沢を渡るちよっとした橋づくりなど ②花壇づくり＝夏・秋咲き花壇の引き続き作成と充実 日時を決め、花壇づくりを行う。 ③東屋づくりの計画＝設計図を作り、材料および資金の計画を立て、資金を集め、基礎より着手。 ④桜公園拡大の桜植樹計画と苗木申請 ⑤桜公園「広場」づくり 竹の抜根後、岩垂草などを植え付け、育成する。			
R4	目標・数値目標		行動計画			
	参加目標270名 (前期)東屋の棟上げ・花壇の充実と案内板設置計画 (後期)桜祭りの準備と実施		"5月から8月 東屋づくりに取りかかる" 一部の大人だけの作業となる。安全に配慮しながら子供たちのできる活動を考え出し、みんなが参加し作った充実感を生み出す。 "10月から4月 散策路の拡充・花壇の拡充に取り組む。" 桜祭りで東屋披露式 ベンチ設置、用水路改修。広場の岩垂草の手入れ			
R5	目標・数値目標					
	参加目標270名 桜公園を拠点に土京山の里山作りをどう進めるか考えあう。必要な学習会を行い、土京山の現状と里山らしさを取り戻すための学習をし、知識を養う。5年計画案を作成する。		桜公園も公園らしさがまし、桜の木も育ち、名所と胸を張れるところとなる。桜公園を拠点にしてさらに土京山の里山回復計画を考える。行使を招き、また、計画を地権者にも話し、合意を進める会を持つ。			
数値目標 (長期)				令和2年度目標活動参加人数		
				250 人以上		
	区分	予算(支出の部)	予定月	説明	金額	
本年度活動計画	A	散策路整備事業費	10月～11月	防腐剤	5,000	
				基盤材 10袋	3,800	
				ブロック 50ヶ	5,000	
	B	公園広場づくり事業費	7月～10月	岩垂草苗購入費	30,000	
				肥料	3,500	
	支出合計					47,300
	区分	(収入の部)				
	A					
	B					
収入合計					0	

収支合計 **△ 47,300**

令和3年度 ながの環境パートナーシップ会議 予算書

収入

単位:円

項 目	R2予算額	R2決算額	R3予算額	R3予算額－ R2予算額	説 明
I 負担金・会費	1,091,000	1,081,000	1,085,000	△ 6,000	
1 負担金・会費	1,091,000	1,081,000	1,085,000	△ 6,000	市負担金(1,000千円)、会費(500円×170)
II 事業収入等	698,000	695,598	120,000	△ 578,000	
1 事業収入	210,000	209,287	60,000	△ 150,000	バナー広告料(15,000円×4社)
2 雑収入	60,000	58,311	60,000	0	寄付金、利子等
3 助成金	428,000	428,000	0	△ 428,000	
III 繰越金	1,060,683	1,060,683	736,072	△ 324,611	
1 繰越金	1,060,683	1,060,683	736,072	△ 324,611	前年度繰越金
合 計	2,849,683	2,837,281	1,941,072	△ 908,611	

支出

単位:円

項 目	R2予算額	R2決算額	R3予算額	R3予算額－ R2予算額	増 減 理 由
I 活動費	95,000	25,000	75,000	△ 20,000	
1 自主事業活動費	60,000	0	60,000	0	ながの環境団体大集合、公開学習会
2 共催・参加事業活動費	35,000	25,000	15,000	△ 20,000	長野エコ活動推進本部、ながの環境フェア、山の日イベント、地域まるごとキャンパス
II プロジェクト活動費	2,072,000	1,925,859	1,198,800	△ 873,200	
1 生ごみ削減・再生利用	498,000	498,000	235,500	△ 262,500	
2 市民の森づくり	466,000	465,405	290,000	△ 176,000	
3 太陽エネルギー普及促進	30,000	0	0	△ 30,000	
4 聖山自然復元	0	0	0	0	
5 子どもの環境学習支援	20,000	10,000	0	△ 20,000	
6 ながのカーボンオフセット	0	0	0	0	
7 小生物の育成環境保全	536,000	536,000	536,000	0	
8 生態系豊かな、水に親しめる川づくり	40,000	0	40,000	0	
9 ゴマシジミ保護・育成	0	0	0	0	
10 田中さくら公園作り&里山づくり	432,000	416,454	47,300	△ 384,700	
11 新規プロジェクト	50,000	0	50,000	0	
III 保険料	60,000	52,500	49,000	△ 11,000	
1 保険料	60,000	52,500	49,000	△ 11,000	ボランティア活動保険料(350円×140)
IV 広報費	145,000	60,424	145,000	0	
1 啓発・報告書等費	120,000	52,640	120,000	0	レジ袋啓発活動用パンフレット印刷費(80,000円)、新聞広告料(40,000円)
2 ホームページ維持費	25,000	7,784	25,000	0	レンタルサーバ、ドメイン使用料、HP維持費
V 事務局費	85,000	37,426	85,000	0	
1 事務局運営費	85,000	37,426	85,000	0	事務消耗品、振込手数料、郵送料
VI 予備費	392,683	0	388,272	△ 4,411	
1 予備費	178,683	0	388,272	209,589	
2 助成金	214,000	0	0	△ 214,000	
合 計	2,849,683	2,101,209	1,941,072	△ 908,611	

**新聞記事等で見える
ながの環境パートナーシップ会議・
関係団体の活動**

R2.6.1～R3.5.31

ながの環境パートナーシップ会議 新聞等掲載一覧表（R2.6.1～R3.5.31）

番号	掲載年月日	掲載新聞名・広報紙名	掲載記事見出し	掲載記事の関係団体名 (P会議プロジェクト及びP会議会員団体等)
1	R2.6.27	長野市民新聞	環境保全や美化活動 飯縄山や一の鳥居苑地で	NPO法人みどりの市民
2	R2.6.30	長野市民新聞	買い物袋どうする あすレジ袋有料義務化	P会議(レジ袋チーム)
3	R2.7.4	長野市民新聞	チョウの羽きれい 松代幼稚園東条の林で オオムラサキ観察	小生物の育成環境保全PT
4	R2.7.4	週刊長野	国蝶オオムラサキの里 7月5日観察会	小生物の育成環境保全PT
5	R2.7.7	長野市民新聞	野菜の皮や種も使って エコ調理パンフ発行 ごみ減量アピール	NPO法人みどりの市民
6	R2.7.9	長野市民新聞	オオムラサキ見入る 松代の飼育用ハウス内で	小生物の育成環境保全PT
7	R2.8.8	長野市民新聞	浅川の市霊園でゴマシジミ舞う	浅川地区住民自治協議会
8	R2.8.18	信濃毎日新聞	プラごみ海洋汚染 海なし県から考えよう 長野で30日現状など学ぶ講座	NPO法人みどりの市民
9	R2.8.22	週刊長野	海ごみ対策を学ぶリーダー養成講座 30日	NPO法人みどりの市民
10	R2.8.22	信濃毎日新聞	絶滅危惧種 ゴマシジミ確認数最多	浅川地区住民自治協議会
11	R2.10.6	長野市民新聞	SDGsを学ぶ。100年先もナガノで暮らす。広告	長野県NPOセンター
12	R2.10.17	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン2020 in ながの 広告	ライトダウンながの実行委員会
13	R2.10.20	長野市民新聞	ライトダウン 23日に呼び掛け 長野駅で演奏会も	ライトダウンながの実行委員会
14	R2.10.22	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン2020 in ながの 広告	ライトダウンながの実行委員会
15	R2.10.29	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン終了 コンサート継続願う	ライトダウンながの実行委員会
16	R2.11.3	長野市民新聞	カードゲームでSDGsを理解	長野県NPOセンター
17	R3.1.3	長野市民新聞	会員募集 広告	NPO法人みどりの市民
18	R3.4.11	長野市民新聞	会員募集 広告	ながの環境パートナーシップ会議

5 2020年(令和2年)6月27日(土) 市民新聞

R2.6.27
長野市民新聞

地域を支える



—115—

飯綱高原を美しくする会

飯綱山(標高1917m)や大谷地湿原、有数の観光地として美一の鳥居苑地など豊富な自然を有する飯綱高原で、環境保全や美化活動に取り組む。登山道の整備と清掃、木や花の植栽事業を年間を現在市や地元住民

環境保全や美化活動 飯綱山や一の鳥居苑地で



恒例の清掃登山(2018年)

環境保全に取り組むNPO法人「みどりの市民」など11団体が所属し、年間で300人余が活動する。

登山道清掃は、毎年

6月5日の開山式に合わせ、一般公募の登山愛好家らと一緒に実施する。倒木の片付けや登山道の修復は、同会の登山道整備部会が定木など現地の素材を使って足場などを整備する「近自然工法」を取り入れていく考え。17年(平成29)年に北海道の山岳整備専門家らと、子供たちにも参加を呼び掛け、故郷への愛着を育んでいる。

など研究を進めている。一の鳥居苑地では、春と秋の年2回、地元住民を中心とした会員による清掃や草刈りを実施(今春は悪天候のため中止)。夏の一大イベント「飯綱火まつり」では、会場の大座法師池周辺の一斉清掃を行う。地元行事に携わることや地域とつながりを深め、環境保全について学んでほしいと、子供たちにも参加を呼び掛け、故郷への愛着を育んでいる。

今後の課題はマンパワーの確保。特に登山道の整備は、体力のある若者の協力が欠かせない。地元の若者やボランティアにも協力を仰ぎ、活動を継続したいと考えている。

会長を務める西澤一幸・飯綱高原観光協会長(71)は「若い人たちが自ら『美しい飯綱高原を守りたい』と思えるよう工夫しながら、地道に活動を続けたい」と話している。

(村石 梓)

今年春の持参率 65%

ながの環境パートナーシップ会議 長年啓発手応え

長野市内でのレジ袋削減に向けて、市民と事業者、行政が協力し

年の調査では、持参率が71・5%だった女性に対し、男性は50・8%にとどまった。特に30～40代の働き盛りの男性は持参率が低かったという。

は、03（平成15）年にプロジェクトチームを発足させて啓発活動をはじめた。その結果、スタート時に市内5店舗での調査で10%未満だったマイバッグ持参率は、20年3月には65・4%まで上昇した。

チームリーダーの渡辺ヒデ子さんは「市民にマイバッグ所持の意識が定着した」と手応えを感じている。

一方で、マイバッグの持参率には男女差があることも分った。20

同チームは、子供の頃からマイバッグを持つ意識を持ってもらうと、レジ袋削減と環境問題について考える冊子を市内の小学4年生に配布している。渡辺さんは「マイバッグを忘れることもあるので、持参率が100%になることは無理」と前置きした上で、「今回の有料化が、年齢や性別に関係なくみんなが環境について考えるきっかけになればいい」と話している。

チョウの羽きれい

松代幼稚園
東条の林で オオムラサキ観察

松代町東条竹ノ入地 田蝶（ちよう）オオムラサキの林地で2日、松代幼稚園Ⅱと同町松代Ⅱが、年中・年長児約50



手を伸ばし、さなぎに触れる園児たち

人がパイプハウス内で飼育されているさなぎや飛ぶ成虫を見て、歓声を上げた。

同幼稚園ではアケハチョウなど飼育しているためチョウに対する園児の関心が高く、地域にオオムラサキの生息地があることを知り、初めて訪問。市と市民、市内の事業者でつくる「ながの環境パートナーシップ会議」内でオオムラサキの保護に取り組み「小生物の育成環境保全プロジェクト」のメンバーが案内した。

園児たちはハウス内で高く飛ぶ成虫を見つめ、「ここにいるよ」「羽がきれい」と興奮。木の枝にさなぎがいて、さなぎをそっと指で触れて、跳ねるよう

に動く様子も確認した。木原めぐみ副園長（57）は「大勢の人たちに案内してもらい、子供たちはすごく喜びました」と感謝。同プロジェクトの杉山茂樹会長（71）は「こんなに近くで昆虫を観察する機会は少ないと思うので、いい経験になったはず」と話していた。

5日午前9時30分、11時30分には松代温泉団地北側にあるこの林地で、松代地区住民自治協議会教育文化支援委員会が一般対象の観察会を開く。参加無料で申し込み不要。新型コロナウイルス対策でマスクを着用する。

〔11〕 2020年（令和2年）7月4日（土曜日）

週刊長野

国蝶オオムラサキの里

7月5日
観察会

松代地区住民自治協議会教育文化支援委員会は7月5日（土）9時半から、松代町東条竹ノ入の「国蝶オオムラサキの里」で一般の人たちを対象とした「オオムラサキの観察会」を開きます。

いつでもオオムラサキが見られる環境を「と、昨年初めて敷地の一角に設置した農業用のパイプハウスでは、今年は例年



羽化したオオムラサキ

より早い6月14日ごろに最初の1匹が羽化しました。24日までに、雌に先行して、青紫の色の美しい羽を広げて舞う雄20匹近くが確認されています。

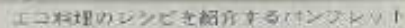
観察会当日は、この場所ので20年にわたって保護活動に取り組んできた信州昆虫学会の北村文治さんらによる説明があります。園内では、ほかにジャコウアゲハなどの幼虫を見ることが出来ます。

事務局は「マスク着用や手洗いなど感染対策を徹底して参加を」と呼び掛けています。参加は無料。当日は近くのまきば保育園（松代温泉）の駐車場を利用、そこから歩いて現地へ向かいます。

問 小林 090・43

65・7801

野菜の皮や種も使って



豊橋限外活動に取り組むNPO法人「あまの田舎」は、野菜の皮や種など食材として使う「エコ園芸」の理念を重視した「フレット」を初めて発売した。この「減量減価減コスト」する目的、難さ活用したと燃える減排効果をjつ使う「タンリー」子手など、B品を旨味入りので取り込んでいる。

にも広く活用してもら
わうとまとめた。レシ
にはアドバイサー7人
が実際に料理して掲載
を求めた。

[illegible]

AとBの二つ折のアル
 カブ、1千座の間に
 長崎市ふれあい福祉セ



オオムラサキ見入る

松代の飼育用ハウス内で

松代町東条町ノ入地
籍の林地「国興オオム
ラサキの里」で5日、
一般向けの国興オオム
ラサキ観察会があつた。市内外から家族連
れの150人余が参
加。飼育用ハウス内に
保護されているオオム
ラサキの幼虫、さなぎ、
成虫を触ったり、
写真に収めたりした。
ハウス内では、なが
の環境パートナーシ
ンクの小生物育成環
境保全プロジェクトな
どがクラスながら守
るために毎年幼虫を保
護しており、3年目。

手に止まったオオムラサキに見入る子供

今年3月100匹
余を保護し、6月中旬
から羽化が始まった。
上野から家族で訪れ
た若槻小1年の三沢輝
一君は「さなぎがフル
ブルッと動いて面白
い」と、うれしそうに
何度も触れていた。

観察会は松代地区住
民自治協議会教育文化
支援委員会の主催。今
年の観察会は、この日
終了のため、成虫は林
に放した。

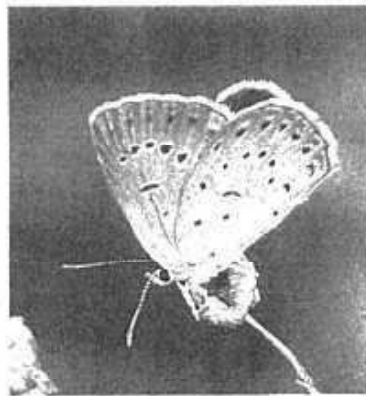
浅川の市霊園で ゴマシジミ舞う

浅川清水の長野市霊園に、環境省のレッドリストで「絶滅危惧ⅠA類」に指定されているチョウ「ゴマシジミ」が飛び始めた。6日は8匹が園内に植えられた花々の間を舞い、時折、羽を休めていた。写真。

同園では、管理する市開発公社と地元の浅

川地区住民自治協議会が5年前から、ゴマシジミの産卵場所や幼虫の餌になる植物ワレモコウを育てて保護している。今年は4日に初めて成虫を確認。長雨で例年より1週間ほど遅かった。9月上旬まで見られるという。

同自治協は違法な捕獲を防ぐため、霊園職員がいない時間帯にパトロールをしている。地域活性化推進



員の原田孝成さん(70)は「浅川西条」は「活動が定着し、個体も増えてきた」と喜んでいる。

〔 9 〕 2020年（令和2年）8月22日（土曜日）

海洋プラスチックごみの問題について学ぶ「海ごみ対策地域リーダー養成講座」が8月30日（日）10時から15時半、長野市リサイクルプラザ（松岡）で開かれま

す。このテーマでは県内で初めて開く講座です。

川などから流れ込んだ微小なプラスチック片が海を汚染し、魚や海鳥が食べてしまうなどの問題が知られ始めています。長野県も昨年、レジ袋を使わないという選択や、使

い捨てプラスチックを代替品に転換することなどを呼び掛ける「信州プラスチックスマート運動」を展開してい

ます。当初は2月に開く予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期しました。当日は10時から12時に、リサイクルプラザ

海ごみ対策を学ぶ リーダー養成講座

30日

講座は環境活動に取り組む市内のNPO法人みどりの市民が、海ごみを生んでいる実態を

知り、減らすための活動につなげてほしい」

近くの犀川河川敷で実際にごみを拾い、清掃を兼ねてごみの実態を調査。昼食をはさんで13時から、環境カウンセラーで「容器包装の3Rを進める全国ネット

トワーク」運営委員長の中井八千代さん（東京）を講師に、プラスチックによる海洋汚染の現状や、対策の進め方などを学びます。

参加費は保険代・資料代として2000円。定員は先着30人。参加申し込みは8月25日（木）までに電話で。

参加者はごみ拾いの作業ができる服装で、帽子、軍手、昼食、飲み物（マイボトル）、筆記用具を持参。
国岡みどりの市民会
269・5092

「市民とNPOのひろば」に関するお問い合わせは…編集委員会情報窓口TEL223・0051 FAX223・0052まで

100年先もナガノで暮らす。



SDGsを
エス ディー ジー ズ
学ぶ。

card	カードゲーム 2030SDGs	card	SDGs アウトサイドインカードゲーム
10/9 金	15:00 ~ 18:00 トイ・ゴ生涯学習センター3階 学習室1	10/23 金	18:30 ~ 21:00 トイ・ゴ生涯学習センター3階 学習室1
10/23 金	15:00 ~ 18:00 もんげんぶら座 304 会議室	card	災害を振り返りカードゲームに挑戦！ シンポジウム & 2030SDGs
card	カードゲーム SDGs de 地方創生	11/23 祝	13:00 ~ 17:00 飯山市文化交流館なちゅら
10/9 金	18:30 ~ 21:00 もんげんぶら座 304 会議室		

SDGs 研修に関するお申し込み・お問い合わせ **要予約**

特定非営利活動法人 **長野県 NPO センター**
長野市高田 1029-1 E-mail: info@npo-nagano.org

TEL 026-269-0015



R2.10.6 市民

R2.10.17、22
長野市民新聞

★・・・★・・・★・・・ ライトダウンする夜は、みんなが地球を想う夜。 ・・・★・・・★・・・

ライトダウンキャンペーン2020 in ながの

ライトダウン実施日 2020年10月23日(金) 18:00～22:00 温暖化防止のために、家庭や事業所・公共施設の照明をできるだけ消してもらおうと呼び掛けるキャンペーンです。

Love & Peace

キャンドルナイトラストコンサート 10月23日(金) 18:00～20:00

会場：JR長野駅善光寺口駅前広場

キャンドルの光とともに夜空を楽しみませんか。秋の宵、JR 長野駅の駅前広場で太陽光発電による電力(照明)や、電気自動車から給電した電力を使用したコンサートを開きます。

★出演
シンガーソングライター
草木ヒロカ
シンガーソングライター
清水まなぶ
二胡演奏
高山賢人
ゴスペルチャップスクワイア
ラフダイヤモンドズ

★キャンドルライトアップ
手作りのエコキャンドル(400個予定)

★メッセージキャンドル
メッセージカードを書いていただき、キャンドルなどに掲示

★星空散歩
天体望遠鏡による星空観測

★主催 ライトダウンながの実行委員会
【長野県環境保全協会(長野本部)、長野県・長野市地球温暖化防止活動推進員(長野市在住)、長野市、ながの環境(ネットワーク)会、NPO法人みどりの市民(注)、長野市、JR東日本長野支社、ながの車ファンティア市販品販賣部ネットワーク、ながの環境ねっと、長野アートミュージック、長野市(有)自動車株式会社】

★後援 長野県、長野市地球温暖化防止活動推進センター、長野市地球温暖化防止活動推進センター、長野市工務局、長野市環境局、長野市消防局、長野市消防局、NPO法人みどりの市民、TSBアライズ、NPO法人長野県白旗会、PMO、FMS、FMS

詳しくは… <http://lightdown.nagano-ep.net/>

お問い合わせ | ライトダウンながの実行委員会 長野市環境保全温暖化対策課 TEL.026-224-7532 NPO法人みどりの市民 TEL&FAX 026-269-5092

R2.10.17 市民

R2.10.20
長野市民新聞

R2.10.20 市民

長野市や環境団体などで行った「ライトダウン」は、家庭や事業所などに消灯を呼び掛ける「ライトダウンキャンペーン」を行う。08(平成20)年から毎年開催。市民意識が向上して一定の成果が得られたとして、今回を最後に終了する。

ライトダウンは午後6～10時に一斉実施。中々キャンドルナイトを愛する「キャンドルナイト」

ライトダウン 23日に呼び掛け

長野駅前で演奏会も

JR長野駅善光寺口の駅前広場では6～8

ラストコンサート」を開く。シンガー・ソングライター清水まなぶさんと草木(あしき)ヒロカさん、ゴスペルグループ「ラフダイヤモンドズ」が歌声を披露。二胡奏者の高山賢人さんも出演する。

参加無料。天体望遠鏡による星空観測もできる。●市環境保全温暖化対策課(☎224・7532)。

ライトダウンキャンペーン終了 コンサート継続願う



大勢の市民が参加したキャンドル
ナイトラストコンサート

引き継ぐ団体探す

実行委の
高齢化で

市民や事業所などに不必要な照明の消灯を呼び掛ける「ライトダウンキャンペーン」に合わせ、JR長野駅善光寺口の駅前広場で恒例のキャンドルナイトコンサートがあった。長野市やNPO法人などでつ

くる主催の実行委員会は、委員の高齢化などを理由にキャンペーンを今年で終了するため、コンサートを引き継ぐ団体を探している。

一定の成果もあったとして終了する。ただ、キャンドルナイトコンサートは市民に長年親しまれていること

から引き継ぎたいという。実行委を構成するNPO法人「みどりの市民」の事務局長、渡辺

ヒデ子さんは「キャンドルの光と音楽で癒やされる空間を若い人に続けてもらい、長野をキャンドルコンサート

の聖地にしてほしい」と話している。みどりの市民（☎269・5092）。

同キャンペーンは、国の呼び掛けに応じて実行委員会が08（平成20）年に長野市内で開始。節電意識の向上に

ラストコンサートには、豊野町出身のシンガー・ソングライター清水まなぶさんら県内ゆかりの歌手が参加。太陽光発電方式の照明器具を使い、ステージ周辺にろうそくを再利用した「エコキャンドル」400個を並べて楽しんだ。

R2.11.3 市民新聞

カードゲームで SDGsを理解

「持続可能社会の実現に自分はどう行動すべきか」を体感できる三つのカードゲームを主体とした「SDGs集中講座」が市内で10月9・23日の両日開かれ、延べ100人が受講しました。

主催の長野県NPOセンターは、昨年度から県内各地でカードゲームを使い、SDGsを推奨してきました。



他のチームと情報交換する参加者

グローバルな視点から広く理念を理解する「2030SDGs」、ローカルな視点から捉える「SDGs de」

このうち「アウトサイドインカードゲーム」は、学校関係者、行政、学生も含め34人が受講し関心の高さをうかがわれました。参加者は仮想の企業チームに分かれて、与えられた資源カードを元に新事業を立ち上げます。社会課題を解決することに収益が得られ、保有資産を頼りませんでした。新事業に必要な資源が得られないため多くの事業を展開しても収益に結びつかず苦戦するチーム、少ない事業で高収益を上げるチームと結果はさまざま。収益だけに着目せず、事業をいかに社会課題解決につなげるか

がポイントでした。参加者からは「県のSDGs登録企業を目指している」「登録企業として社員に周知するまでSDGsを学ぶ

るのにカードゲームはわかりやすい」との声を。講師の岡田義彦さんは「小学校から大学と話しました。」



ほうきの「コトコト」
しっかり者の省エネ博士

自転車にのる
ペンギンのぺんぺん

環境NPO法人

ほ し い の ち

ひとつの地球 ひとつの生命

みんな
笑がお

エシカル



野菜

生ごみ・竹パウダー

堆肥化
(一次生成物)

土(畑)

エシカル消費って？
環境にも 人にも 地域にもやさしい消費のことです。
※エシカル(ethical)=[倫理的・道徳的]の意
長野市をフェアトレードタウンにしよう。

みどりの市民の活動
みどりの市民は環境学習・環境教育を大きな柱に活動しています。
それぞれの活動は持続可能な社会づくりを学ぶ場となります。

みどりの市民

どんぐり・るるネットの
会員になって生ゴミを堆肥化しよう!

会員募集

〒380-8553 長野市若里4-17-1 信州大学工学部 UFOながの 高木研究室内
TEL&FAX.026-269-5092 URL <https://midorinoc.sub.jp/>

R3.1.3 市民新聞

R3.1.3
長野市民新聞

かけがえのない環境を
次世代の子どもたちへつなげるために
一緒に環境活動をはじめませんか？

会員・新チーム
募集中

こんな活動をしています

- 生ごみ削減・再生利用
- 市民の森づくり
- 太陽エネルギー普及促進
- 聖山の自然復元
- 子どもの環境学習支援
- カーボンオフセット制度の調査・研究
- 小生物の育成環境保全
- 水環境の保全
- ぽんすけ(シナイモツゴ)の保護活動
- ゴマシジミの保護活動
- 桜公園環境整備 ほか



市民・事業者・行政の協働による環境活動

ながの環境パートナーシップ会議

長野市環境保全温暖化対策課内

事務局／〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地 電話026-224-5034 FAX026-224-5108

ながの環境パートナーシップ会議会則

平成21年6月25日

改正 平成21年10月17日

一部改正 平成22年6月5日

一部改正 平成23年6月4日

一部改正 平成24年6月10日

一部改正 平成30年6月17日

一部改正 令和2年8月6日

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、ながの環境パートナーシップ会議と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、長野市環境部環境保全温暖化対策課内に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本会は、長野市域における環境を保全するためのネットワークを築くとともに、地球規模の環境問題へ視野を広げ、地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐことを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 「アジェンダ21ながの一環境行動計画」の推進
- (2) 環境保全に関する普及啓発
- (3) 環境保全活動を行う団体等の支援
- (4) 環境の保全と創造に関する提言
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な事業

第3章 会員

(会員)

第5条 本会は、目的に賛同する市民及び団体並びに行政機関をもって構成する。

2 会員は、正会員及び本会の活動を支援する賛助会員とする。

(入会)

第6条 本会の会員になろうとするものは、別に定める入会申込書を代表理事に提出し、理事会の承認を得なければならない。

(会費)

第7条 会員は、会費を納入しなければならない。

2 会費は年会費とし、その金額は理事会でこれを定める。

3 既納の会費は、返還しない。

(退会)

第8条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

第9条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この会則その他この会則に基づく規程に違反したとき。
- (2) 本会の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第10条 会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第7条の支払義務を2年以上の期間にわたり履行しなかったとき。
- (2) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

第4章 役員

(役員設置)

第11条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事 5人以上10人以内
- (2) 監事 2人以内

2 理事のうち1人を代表理事とする。

3 代表理事以外の理事のうち2人を副代表理事とする。

(役員選任)

第12条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。ただし、理事のうちの1人は、長野市環境部長の職にある者をもってあてる。

2 代表理事及び副代表理事は、理事の互選とする。

(理事の職務及び権限)

第13条 理事は、理事会を構成し、この会則の定めるところにより、職務を執行する。

2 代表理事は、この会則の定めるところにより、本会を代表し、その業務を執行する。

3 副代表理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故あるときは、その職務を代行する。

(監事の職務及び権限)

第14条 監事は、理事の職務の執行を監査し、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、幹事に対して事業の報告を求め、本会の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第15条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4 理事又は監事は、第11条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第16条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(顧問)

第17条 本会に、任意の機関として、顧問を置くことができる。

2 顧問は、次の職務を行う。

(1) 代表理事の相談に応じること。

(2) 理事会から諮問された事項について意見を述べること。

3 顧問の選任は、理事会において決議する。

4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない

第5章 総会

(種別)

第18条 本会の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第19条 総会は、すべての正会員をもって構成する。

(権限)

第20条 総会は、次の事項について決議する。

(1) 会則の変更

(2) 理事及び監事の選任又は解任

(3) 会員の除名

(4) 事業計画及び収支予算

(5) 事業報告及び収支決算

(6) 解散及び残余財産の処分

(7) その他本会に関する重要な事項

(開催)

第21条 通常総会は、毎年度1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

(1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。

(2) 総会員の10分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(3) 監事から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(招集)

第22条 総会は、理事会の決議に基づき代表理事が招集する。

2 代表理事は、前条第2項各号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁記録をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第23条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

(議決権)

第24条 総会における議決権は、正会員1人につき1個とする。

(定足数)

第25条 総会は、正会員の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(決議)

第26条 総会の議事は、この会則に別に規定するもののほか、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。この場合において、議長は、正会員として議決に加わる権利を有しない。

(書面主義)

第27条 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2条の規定の適用については、出席したものとみなす。

2 災害等の緊急事態において、代表理事が必要と認め理事会が承認したときには、あらかじめ通知された事項について、正会員の過半数が書面をもって表決することで、総会が開催されたこととみなすことができる。

(議事録)

第28条 総会の議事については、議事録を作成する。

2 議長及び出席した理事のうち1人以上は、前項の議事録に記名押印する。

第6章 理事会

(構成)

第29条 本会に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第30条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) 本会の業務執行の決定
- (2) 代表理事及び副代表理事の選定及び解職
- (3) その他本会の運営に関し必要な事項

(招集)

第31条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 代表理事が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 監事から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(決議)

第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事の全員が書面又は電磁記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議をのべたときは、その限りでない。

(会議記録)

第33条 理事会の議事については、確認事項等を記載した会議記録を作成する。

第7章 プロジェクトチーム等

(プロジェクトチーム)

第34条 第4条に規定する事業を推進するため、プロジェクトチームを置くことができる。

2 プロジェクトチームは、希望する会員をもって構成する。

3 プロジェクトチームは、会議、ワークショップ、講演会、研修会の開催、事業化に向けた調査研究等の具体的な活動を実施する。

(プロジェクト実施会議)

第35条 第4条に定める事業を推進するため必要と認められる場合、プロジェクト実施会議を開催することができる。

2 プロジェクト実施会議は、プロジェクトチーム、長野市関係課、顧問等事業の推進に必要な者及び事務局又は理事をもって構成する。

第8章 事務局

(設置等)

第36条 本会の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局に、事務局長及び所要の職員を置く。

3 事務局長及び職員は、代表理事が任命する。

4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の承認を経て、代表理事が別に定める。

第9章 資産及び会計

(資産の構成)

第37条 本会の資産は、次に掲げる事項をもって構成する。

(1) 会費

(2) 寄付金品

(3) 事業に伴う収入

(4) 資産から生ずる収入

(5) その他の収入

(資産の管理)

第38条 資産は、代表理事が管理し、その方法は、理事会の決議を経て代表理事が別に定める。

(経費の支弁)

第39条 本会の経費は、資産をもって支弁する。

(事業年度)

第40条 本会の事業年度は、毎年6月1日に始まり翌年の5月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第41条 本会の事業計画及び収支予算は、毎事業年度の開始の日の前日までに、代表理事が作成し、理事会の決議を経て、総会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、当該事業年度が終了するまでの間、事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(暫定予算)

第42条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代

表理事は、理事会の決議を経て、予算の成立の日まで前年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(事業報告及び決算)

第43条 本会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、代表理事が次の書類を作成し、監事の監査を経て、通常総会に報告しなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 収支決算書
- (4) 収支決算書の附属明細書
- (5) 財産目録

第10章 会則の変更及び解散

(会則の変更)

第44条 この会則は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第45条 本会は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(財産の贈与)

第46条 本会が解散する場合には、総会の決議を経て、財産残額に相当する額の財産を、地方公共団体に贈与するものとする。

第11章 公告の方法

(公告の方法)

第47条 本会の公告は、電子公告により行う。

2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法による。

附 則

(施行期日)

1 この会則は、平成21年10月17日から施行する。

(経過措置)

2 最初の総会は、ながの環境パートナーシップ会議会則（平成13年5月8日制定。以下「旧会則」という。）第4条第1項各号に規定する者が招集することができる。

3 この会則の施行の日前に旧会則の規定に基づく会員であったものは、第6条の規定に関わらず、本会の会員とする。

4 本会の会費は、平成22年5月31日までの間は、第7条第1項の規定にかかわらず、納入を要しない。

(役員の任期の特例)

5 最初の総会で選任される幹事及び監事の任期は、第15条第1項及び第2項の規定にかかわらず、平成22年に開催される通常総会の終結の時までとする。

附 則

この会則は、平成21年10月17日から施行する。

附 則

この会則は、平成 22 年 6 月 5 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 23 年 6 月 4 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 24 年 6 月 10 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 30 年 6 月 17 日から施行する。

附 則

この会則は、令和 2 年 8 月 6 日から施行する。